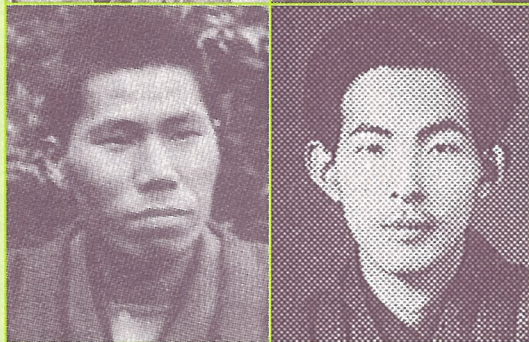
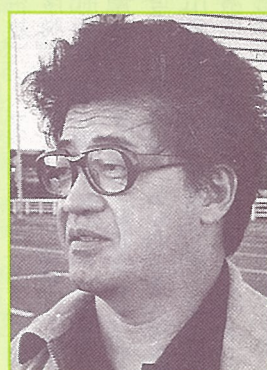
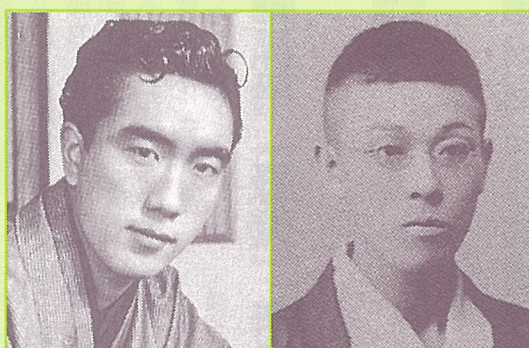


数ある近代文学の名作の中から精選し、
作品の真髄に迫り、
より一層の理解を深めるために――。

近代文学 作品論 集成

第Ⅱ期
全10巻



クレス出版

『近代文学作品論集成』第Ⅱ期の発刊によせて

編集代表

石内 徹

先般刊行した作品論集成第Ⅰ期十巻に引き続き、第Ⅱ期十巻の刊行を開始するはこびとなった。

第Ⅱ期に選んだ作品は、明治三十年代の『高野聖』と大正十四年発表の『檸檬』以外は、すべて昭和文学である。『夢喰ふ虫』『つゆのあとさき』『風立ちぬ』は昭和初期の名品である。さらに、『野火』は昭和二十年代、『砂の女』『金閣寺』『死の棘』は昭和三十年代の代表作であり、『沈黙』は昭和四十年代のベストセラーである。これに、第一期の作品を重ねると近代日本文学の代表作を精選し、ほぼ網羅しえたと考える。

二十世紀を迎え、活字文化は深刻な変動期を迎えている。このような時期に作品のおもしろさを発見し、享受するには、作品を精読することである。と同時に、先人の研究に目を通すことが求められよう。

そのために本集成の編集方針は第一期を踏襲した。これまでの主要な論考や基礎的論考を一冊一冊にまとめ、巻末に研究の史的流れを展望する解説を付した。編者は近代文学に造詣が深い文学研究の専門家である。本集成が近代文学研究家のみならず、一般の読者にも魅力ある一冊一冊となることを願ってやまない。

(清和女子短期大学)

第Ⅱ期全10巻構成

⑪ 泉 鏡花 『高野聖』 作品論集

田中勲儀編

〔収録予定〕 高野聖 (吉田精一) / 鏡花の初期習作『白鬼物語』と『高野聖』 (村松定孝) / 『高野聖』成立考 (手塚昌行) / 鏡花文学と民間伝承と——近代文学の民俗学的研究への一つの試み—— (松原純一) / 泉鏡花『高野聖』を視座として (関良一) / 鏡花作『高野聖』往還 (増田五良) / 泉鏡花『高野聖』旅人のものがたり (前田愛) / 『高野聖』の水中夢 (東郷克美) / 『高野聖』成立の基盤 (岡保生) / 『飛縁魔物語』考 (小林輝治) / 高野聖 (抄) (野口武彦) / 夢と山姫幻想の系譜——鏡花への私注—— (高田衛) / 『高野聖』の神話的構想力 (笠原伸夫) / 泉鏡花『高野聖』論——その語りをめぐって—— (鈴木啓子) / 鏡花における「魔」的美女の形成と展開——『高野聖』を中心に—— (須田千里) / 泉鏡花『高野聖』——「代がはり」の意味するもの (種田和加子)

⑫ 梶井基次郎 『檸檬』 作品論集

鈴木貞美編

〔収録内容〕 文芸時評——梶井基次郎と嘉村礪多 (小林秀雄) / 梶井基次郎 (日沼倫太郎) / 『檸檬』鑑賞 (福永武彦) / 青春の虚像——『檸檬』梶井基次郎 (三好行雄) / 『檸檬』 (磯貝英夫) / 梶井基次郎 (山本健吉) / 梶井基次郎著『檸檬』 (吉田照生) / 『檸檬』 (竹西寛子) / 『檸檬』と爆弾 (宮内豊) / 文学概念についての仮説 (部分) (加藤周二) / 『檸檬』 (須藤松雄) / 梶井基次郎『檸檬』 (大谷晃一) / 『檸檬』成立まで (鈴木沙那美) / 『檸檬』 (濱川勝彦) / 梶井基次郎——玩物喪志の道 (加藤典洋) / 『檸檬』について (諸田和治) / 美的自己慰安の文学『檸檬』 (古閑章) / レモンの街 京都モダン・シティ紀行 (海野弘) / 『檸檬』 (内田照子) / 『檸檬』の達成 (中島国彦) / 梶井基次郎『檸檬』の丸善 (神田由美子) / 『檸檬』 (鷲口雄) / 『檸檬』 (鈴木貞美)

⑬ 谷崎潤一郎 『夢喰ふ虫』 作品論集

笠原伸夫編

〔収録内容〕 『谷崎潤一郎論』抄 (中村光夫) / 『潤一郎と春夫』抄 (松本清張) / 『夢喰ふ虫』の世界と構造 (宮城達郎) / 『谷崎潤一郎全集』解説 第十六巻 (伊藤整) / 故郷としての異郷——関西移住と『古典回帰』をめぐって (野口武彦) / 『夢喰ふ虫』再考 (橋本稔) / 『夢喰ふ虫』をめぐって (坂上博一) / 『夢喰ふ虫』をめぐって (平野謙) / 谷崎と三島 (飯島耕一) / 開かれた小説 谷崎潤一郎Ⅳ (佐伯彰一) / 『夢喰ふ虫』考——「人形」の形象について (たつみ都志) / 女房のふところ (千葉俊二) / 『夢喰ふ虫』ノート——淡路の場を中心にして—— (桜井弘) / 『夢喰ふ虫』の構成 (笠原伸夫) / 『夢喰ふ虫』論 (永末啓伸) / 『La Femme』の消失——『夢喰ふ虫』の頃 (宮内淳子) / 〈気分〉を写す 夢喰ふ虫 (明里千章) / 『夢喰ふ虫』論のためのノートへ——「なぐ藤」旅館からみた谷崎潤一郎—— (山口政幸) / 『夢喰ふ虫』の達成 (尾高修也) / 『夢喰ふ虫』論——淡路という空間 (前田久徳)

⑭ 永井荷風 『つゆのあとさき』 作品論集

高橋俊夫編

〔収録内容〕 永井荷風の『つゆのあとさき』 (川端康成) / 『つゆのあとさき』を読む (谷崎潤一郎) / 谷崎潤一郎氏の『つゆのあとさき』論について (川端康成) / 純粋小説といふものについて (小林秀雄) / 偏奇館の荷風先生 『つゆのあとさき』のことなど (日高基裕) / 永井荷風論 (正宗白鳥) / 正宗谷崎両氏の批評に答ふ (永井荷風) / 『つゆのあとさき』 (生島遼一) / 永井荷風——その境涯と芸術 (佐藤春夫) / 『つゆのあとさき』 (吉田精一) / 荷風文学鑑賞『つゆのあとさき』 (奥野信太郎) / 『つゆのあとさき』雑感 (吉行淳之介) / 昨日の花 (竹下英一) / 風俗小説の諸相『つゆのあとさき』 (白井吉見) / 永井荷風と西鶴——西鶴・春水・荷風—— (高橋俊夫) / 『つゆのあとさき』の題名 (竹下英一) / 永井荷風 人と作品 (河盛好威) / 『つゆのあとさき』論——『腕くらへ』との比較を主に—— (坂上博一) / 堤上からの眺望 (野口富士男) / 永井荷風伝 (秋庭太郎) / 『つゆのあとさき』 (笹淵友二) / 君江——昭和女給の記念碑像—— (大野茂男) / 『つゆのあとさき』の前後——『断腸亭日乗』を視点として—— (石内徹) / 銀座復興 (磯田光一) / 『つゆのあとさき』——艶治は至上の美德である—— (森安理文) / 『つゆのあとさき』の驟雨 (江藤淳) / 『つゆのあとさき』解説 (中村真一郎) / ひかげに徹す——昭和初期の荷風—— (劉建輝) / 『つゆのあとさき』まで (菅野昭正) / 自然主義の精製 (菅野昭正) / 理想の女 『つゆのあとさき』の世界 (古屋健二)

⑮ 堀 辰雄 『風立ちぬ』 作品論集

竹内清己編

〔収録内容〕 風立ちぬ——あなたに感謝を言ふのが、元来この告白の意味なのです」指導と信徒」 (立原道造) / 堀辰雄論覚書 (遠藤周作) / 堀辰雄の文学「風立ちぬ」 (小久保美) / 風立ちぬ (長谷川泉) / 永遠の生 (谷田昌平) / 堀辰雄の作品 (福永武彦) / 風立ちぬ (鑑賞) (中村真一郎) / 堀辰雄『風立ちぬ』 (小田切秀雄) / 『風立ちぬ』の構成的性格——作中作の設定をめぐって—— (大森郁之助) / 『風立ちぬ』の意味 (渡辺広士) / 二人称の余韻——堀辰雄と人間 (高橋英夫) / 『風立ちぬ』の世界——堀辰雄とキリスト教—— (佐藤泰正) / 婚約——『風立ちぬ』の空間 (菅谷規矩雄) / 『風立ちぬ』——支配の構造—— (竹内清己) / 風立ちぬ (鑑賞) (池内輝雄) / 『風立ちぬ』論素描——『フウク形式』の軌跡—— (佐藤昭夫) / 『風立ちぬ』試解 (西原千博) / 所謂「芸術家のエゴ」の問題——『風立ちぬ』「春」の成立—— (中島昭) / 風立ちぬ (堀辰雄) (藤澤成光) / 立原道造の評論「風立ちぬ」をめぐる一側面——道造晩年の立脚点—— (影山恒男) / 『風立ちぬ』の〈愛〉 (小泉浩一郎) / 現実への回帰——堀辰雄『風立ちぬ』を中心に (安藤宏) / 『風立ちぬ』のしたごと——時間の小説 (宮内豊) / 『風立ちぬ』の修辞と文体 (石井和夫)

⑯ 大岡昇平 『野火』 作品論集

亀井秀雄編

現在編集中

⑰ 三島由紀夫 『金閣寺』 作品論集

佐藤秀明編

〔収録内容〕 『金閣寺』について (中村光夫) / 背徳の倫理——『金閣寺』三島由紀夫 (三好行雄) / 〈文〉のゆくえ——『金閣寺』再説 (三好行雄) / 美の変質——『金閣寺』論序説 (田中美代子) / 『金閣寺』論 (遠藤伸治) / はじめに判決ありき——三島由紀夫と刑事訴訟法 (野口武彦) / 『金閣寺』の一人称告白体 (有元伸子) / 〈私〉の手記という方法——『金閣寺』の場合—— (杉本和弘) / 『金閣寺』試論——疎外の鏡—— (中野裕子) / 『金閣寺』をめぐって (松本徹) / 『美』の論理——三島由紀夫『金閣寺』—— (山崎義光) / 『金閣寺』観念構造の崩壊 (佐藤秀明) / 反転する話者——『金閣寺』の憑依 (柴田勝二) / 想像力と生——『金閣寺』論—— (井上隆史) / 『金閣寺』論——手記とモノローグの間—— (許昊) / 『金閣寺』の主人公と〈語り手〉——〈作家〉へ—— (田中美) / 〈作用〉する「言葉」——三島由紀夫『金閣寺』論—— (森田健治)

⑱ 島尾敏雄 『死の棘』 作品論集

志村有弘編

〔収録内容〕 島尾敏雄——『死の棘』を視座として—— (磯貝英夫) / 島尾敏雄・日のちぢまり (小久保実) / 評伝的解説——島尾敏雄 (倉橋由美子) / 救魂の秘祭・島尾敏雄 (武田友寿) / 死の棘 (重松泰雄) / 『死の棘』——極限状況と持続の文学—— (奥野健男) / 『死の棘』論 (岡庭昇) / 長篇『死の棘』 (中山正道) / 島尾敏雄 (相原和邦) / 『死の棘』の場合 (吉本隆明) / 『死の棘』における生活者と表現者 (針生一郎) / 『死の棘』をめぐって (栗津則雄) / 『死の棘』——デモンの眼 (上総英郎) / 夢の舌——島尾敏雄覚書 (種村季弘) / 記述者の蹟き——島尾敏雄についてのいくつかのメモ (金井美恵子) / 島尾敏雄論 夢と記述 (高橋英夫) / 仕事の意味——病妻体験—— (小林崇利) / 『死の棘』解説 (山本健吉) / 『死の棘』の受容 (岩谷征捷) / 『死の棘』の中の「あいこ」 (中山正道) / 『死の棘』作品鑑賞 (助川徳豊) / 夫の作品の清書 (島尾三木) / 島尾敏雄『死の棘』の成立と享受など (星加輝光) / 映画『死の棘』 原作者島尾敏雄への私信 (星加輝光) / 家庭 (對馬勝淑) / 『死の棘』考——創作意図の固有性について—— (岩谷征捷) / 続〈病妻物〉の系譜——その変容をめぐって—— (小林和子) / 資質の劇 あるいは受難の資質 (樋口寛)

⑲ 安部公房 『砂の女』 作品論集

石崎 等編

現在編集中

⑳ 遠藤周作 『沈黙』 作品論集

石内 徹編

〔収録内容〕 感想 (亀井勝一郎) / 寛容の文化と不寛容の文化——『沈黙』を読んで (会田雄次) / 転んだ神父たち (河上徹太郎) / 背教者の苦悩と悦び 遠藤周作『沈黙』の強烈なリアリティ (江藤淳) / 〈沈黙する神〉と転向 (高橋和巳) / ころびパレノの「信仰」 遠藤周作『沈黙』 (矢内原伊作) / 沈黙 (山本健吉) / 『沈黙』について (粕谷甲一) / 『沈黙』について (佐古純一郎) / 谷崎賞選後評『沈黙』を推す (円地文子) / 今年度最大の問題作 (大岡昇平) / 緊張したドラマ (武田泰淳) / 感想 (丹羽文雄) / 選考経過 (舟橋聖一) / 遠藤氏の最高傑作 (三島由紀夫) / 近代日本文学とキリスト教——主として遠藤周作『沈黙』について—— (笹淵友二) / 『沈黙』の神学——何処への踏み石か—— (北森嘉威) / 成熟と喪失——母の崩壊—— (江藤淳) / 沈黙していたのはロドリゴだ——遠藤周作『沈黙』について—— (菊田義孝) / 『沈黙』の世界——母性的救済の神への希求—— (玉置邦雄) / 『沈黙』論をめぐって (武田友寿) / 『沈黙』の世界——弱者の論理—— (武田友寿) / 遠藤周作『沈黙』の海外評価——宗教と文学の比重—— (鶴田欣也) / 事実は復讐する——『沈黙』 (川嶋至) / 『沈黙』——踏絵を踏む足の痛み (広石廉二) / 遠藤周作試論——『沈黙』のなかの声—— (小坂真理) / 『沈黙』解説 (佐伯彰一) / 遠藤周作『沈黙』の文体の一特性 (根岸正純) / 『沈黙』——父の宗教から母の宗教への転換 (笠井秋生) / 『沈黙』の方法——『深い河』への行程 (池内輝雄) / 神とシンクレテイズム——遠藤周作『沈黙』について (高橋英夫) / 遠藤周作『沈黙』論 (石内徹)

● A 5判、上製丸背カバー付、本文約360頁、新組(48字×19行)
 定価本体各巻4,800円(揃定価本体48,000円) ISBN4-87733-141-7(セット) C3395

1 本集成は、近代文学の作品の中から著名なものを選び、それに関する論文資料を一作品一冊にまとめる。
 2 排列は原則的に初出年月順とし、〈論争〉等まとめて収めたほうが読み易いものは適宜変更する。
 3 収録に際しては、初出以降転載または単行本化されたものは、それを使用し、著者の意向による訂正も加えている。
 4 組方は基本的に漢字は新字、仮名はそのままとする。
 5 各巻末には、編者の解説を付ける。

● 第1回配本(2002年6月)	14 永井荷風『つゆのあとさき』作品論集 高橋俊夫編 ISBN4-87733-145-X	20 遠藤周作『沈黙』作品論集 石内 徹編 ISBN4-87733-151-4
● 第2回配本(2002年9月)	12 梶井基次郎『檸檬』作品論集 鈴木貞美編 ISBN4-87733-143-3	17 三島由紀夫『金閣寺』作品論集 佐藤秀明編 ISBN4-87733-148-4
● 第3回配本(2002年12月)	13 谷崎潤一郎『夢喰ふ虫』作品論集 笠原伸夫編 ISBN4-87733-144-1	18 島尾敏雄『死の棘』作品論集 志村有弘編 ISBN4-87733-149-2
● 第4回配本(2003年3月)	11 泉 鏡花『高野聖』作品論集 田中勲儀編 ISBN4-87733-142-5	15 堀 辰雄『風立ちぬ』作品論集 竹内清己編 ISBN4-87733-146-8
● 第5回配本(2003年6月)	16 大岡昇平『野火』作品論集 亀井秀雄編 ISBN4-87733-147-6	19 安部公房『砂の女』作品論集 石崎 等編 ISBN4-87733-150-6

近代文学作品論集成

第Ⅰ期全10巻 各巻4,800円(税別)

1 樋口一葉『たけくらべ』作品論集 高橋俊夫編 ISBN4-87733-104-2	2 森 鷗外『舞姫』作品論集 長谷川泉編 ISBN4-87733-105-0
3 夏目漱石『こころ』作品論集 猪熊雄治編 ISBN4-87733-106-9	4 芥川龍之介『羅生門』作品論集 志村有弘編 ISBN4-87733-107-7
5 志賀直哉『暗夜行路』作品論集 町田 榮編 ISBN4-87733-108-5	6 川端康成『伊豆の踊子』作品論集 原 善編 ISBN4-87733-109-3
7 井伏鱒二『山椒魚』作品論集 松本武夫編 ISBN4-87733-110-7	8 太宰 治『走れメロス』作品論集 山内祥史編 ISBN4-87733-111-5
9 宮沢賢治『銀河鉄道の夜』作品論集 石内 徹編 ISBN4-87733-112-3	10 中島 敦『山月記』作品論集 勝又浩・山内洋編 ISBN4-87733-113-1

ことわざ資料叢書

全12巻 ことわざ研究会 編・解説

庶民生活のあらゆるものにかかわる知識・哲学の宝庫。民俗学や文化人類学にとどまらず、言語や文学、歴史学、社会学、心理学、気象学など、きわめて広範な分野の貴重資料。

ISBN4-87733-137-9(セット) 揃定価80,000円(税別)

第1巻 言彦抄、日本の諺、いろは短句 ほか	第7巻 いろは短歌 お伽噺
第2巻 国民の品位 全 一名諺の一口話 品性修養 金言俚諺釈義	第8巻 農業に関する金言俚諺 総合郷土研究
第3巻 格言俚諺辞典	第9巻 琉球俗語、沖縄俚諺集 ほか
第4巻 和漢泰西 金言と俚諺	第10巻 外国人の集めた日本のことわざ
第5巻 故事俚諺辞典	第11巻 朝鮮の俚諺集 附物語
第6巻 傾城諺種、神事画譜 ほか	第12巻 日臺俚諺詳解

荷風文学考

石内 徹著 孤高の人、市隠の文学。永井荷風の「人と作品」を研究した論文一四編。荷風と太宰 荷風・浅草・異郷ほか。 定価四、七〇〇円

野口米次郎選集

全3巻 丸山信解説
 英詩人としてその名を知られる「ヨネ・ノグチ」こと野口米次郎の詩論、文学・芸術論を新に編集
 1 俳句和歌論 三、二〇〇円 2 日本絵画芸術論
 3 海外文学・詩論 各三、四〇〇円

神西清日記

石内 徹解説 多才な文学者の生活や感想、戦時中の社会の動き、時代を反映した興味深い見聞や体験を見事な文章で伝える。 定価九、〇〇〇円

市島春城随筆集

全11巻 藤原秀之解説
 新聞記者、政治家、図書館人、文人春城——彼の体験や交友、早稲田や大隈重信、趣味である古書、書翰蒐集や印章などを綴った随筆を刊行。
 揃定価一〇二、〇〇〇円